

研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
B-141	B-210	14-208	高崎健康福祉大学
<b>題名(原題/訳)</b>			
Lesions of the lateral habenula increase voluntary ethanol consumption and operant self-administration, block yohimbine-induced reinstatement of ethanol seeking, and attenuate ethanol-induced conditioned taste aversion. 手綱外側核の破壊はエタノールの自己摂取と条件付け投与を増加し、ヨヒンビンによるエタノール探索行動の再燃を阻止し、エタノールによる条件付け味覚嫌悪を減弱させる			
<b>執筆者</b>			
Haack AK, Sheth C, Schwager AL, Sinclair MS, Tandon S, Taha SA.			
<b>掲載誌</b>			
PLoS One. 2014; 9(4):e92701. doi: 10.1371/journal.pone.0092701. eCollection 2014.			
<b>キーワード</b>			<b>PMID:</b>
エタノール、手綱外側核(LHb)、エタノール自己投与、アルコール使用障害			24695107
<b>要旨</b>			
<p><b>目的:</b> 手綱外側核(LHb)は、負の結果によって駆動される学習で重要な役割を果たしている。エタノールを含めた多くの乱用薬物は、用量依存性に嫌悪効果を持っていて、そのことは、薬物の摂取を制限するように働く。しかし、エタノール摂取の調節における LHb の役割は不明である。本研究は、LHb を破壊したラットでの自発的エタノール摂取、条件付けエタノール摂取、ヨヒンビン誘導性エタノール探索再燃、エタノール誘導性条件付け味覚嫌悪について検討した。</p> <p><b>方法:</b> Long-Evans ラットを使用した。LHb は電気破壊術で破壊した。自発エタノール(20% (w/v)) 摂取は間欠接近 2 ボトル選択法で評価した。条件付けエタノール摂取、エタノール探索行動、味覚嫌悪試験はオペラント条件付け法で評価した。</p> <p><b>結果:</b> LHb 破壊ラットでは、自発エタノール摂取の増加の程度が対照ラットよりも急速で、エタノール自発摂取の頻度は安定して高い状態が持続した。同様に、LHb 破壊ラットは、条件付けエタノール摂取の頻度が上昇した。さらに、LHb 破壊でヨヒンビン誘導性エタノール探索再燃行動は阻止された。また、LHb 破壊はエタノール誘導性条件付け味覚嫌悪を減弱させた。</p> <p><b>結論:</b> 本研究の結果は、一連のエタノール関連行動における LHb の役割の重要性を新たに示したものである。LHb の破壊はエタノール自己摂取を増加させ、エタノール探索行動を阻止する。そして、LHb はアルコールの嫌悪効果で駆動される学習によって仲介されるエタノール関連行動に関与していることを示唆しており、アルコール使用障害の機序として重要な意味をもっている。</p>			